

式辞

大変な冬でした。大雪や強風にさらされ、ここ十勝は大打撃を受けました。しかし、そんな厳しかった冬もようやく終わりを告げ、緩んだ気温に心なしか気持ち華やぐようになってきました。当たり前のことですが、確実に春は訪れる、改めてそう思います。4月に入り、いよいよここ十勝も色鮮やかな春の賑わいを見せはじめてきています。

このような良き日に、帯広大谷短期大学第59回入学式を、音更町長・小野信次様をはじめとして多くのご来賓、保護者の皆様の見守る中、挙行できますことは帯広大谷短期大学関係者にとりまして、誠に喜ばしいことと思っております。お忙しい中ご参集いただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました地域教養学科25名、生活科学科栄養士課程38名、社会福祉科子ども福祉専攻74名、同介護福祉専攻19名、総計156名の皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

今、皆さんは希望と不安の真只中にいることと思います。新しい環境に入るといふことは、そんな不安定な気持ちと上手に折り合いをつけながら、動き出していくということに他なりません。どうか、楽しいことや嬉しいことを中心に据えて、不安や緊張を、あえて、楽しみながら、これからの学生生活をスタートしてください。

さる3月16日金曜日に119名の学生たちがこの学び舎を巣立つてゆきました。それぞれが新しい環境に今まさにこの瞬間に飛び込んでいくのです。皆さんと同じように緊張をし、来るべき未来に期待をし、そしておどおどしていた、そんな2年前に新入生だった卒業生たちが今や、社会の新しい構成員として再び緊張の最中にいるのでしょうか。新入生の皆さんも今まさに興奮と緊張の中、これからの

学生生活に胸をときめかせているのだと思います。将来の夢に向かって勉強を頑張ろう、サークル活動を積極的に行って、たくさんの友達を作ろう、ボランティアにどんどん出向いていこう、などなど。どうかこれからの帯広大谷短期大学における学生生活に多くの期待をしてください。皆さんが充実した生活を送れるよう、教職員一同、精一杯の支援をこの場を借りてお約束いたします。

さて、私は先の一月に行いました「ブレ・カレッジ」の中で本学の「建学の精神」について小一時間ほどお話をいたしました。多くの皆さんはその場に参加し、私の話を聞いてくれたことと思います。皆さんは率直な感想を多く書いてくれました。また、まじめな姿勢に私は感銘も受けました。講話内容の詳細な繰り返しは避けますが、つまり、我々は今「奇跡のいのち」を生きているということ、だから可能な限り自分の都合で勝手に止めたりしないで、生きつづけていかなければならないこと。これらについて、両手両足を失ってもなお生き抜いた中村久子さんの人生や、病と共生する境地に達した高校生・高間史絵さんの感動的な作文と一緒に確認しながら、「いのちの尊厳」について体感してきたわけです。人は何かができたから立派で素晴らしく、できないから無能である、といったレッテルを貼つてはいけません。物事を成果・結果で判断してはいけません。そこに至るまでの過程こそが意味があり、そこにこそ中村久子さんや高間史絵さんのような「輝けるいのち」の価値が有るのです。つまりは、どのようにしたら恥ずかしくない満足できる自分になれるのか、そんなことを考えて欲しいのです。そのためには、他者と比較することなく、自らの感性を磨き、解決できない多くの課題と正面から向き合うことでしょう。自分を高めるとはそういう思考の繰り返しに他なりません。

女性詩人・金子みすゞに「天漁」という有名な詩があります。短いので全文紹介しておきましょう。

朝焼小焼けだ

大漁だ

大羽鰯の

大漁だ。

浜は祭りの

ようだけど

海のなかでは

何万の

鰯のとむらい

するだろう。

あまりにも有名ですので、皆さんもご存知な方が多いと思います。みずぐは浜の大漁に湧く多くの人々の嬌声の中、しめやかに、そしておごそかに行われている海の底の鰯のとむらいを感じていました。そんな風景を彼女の感性のうちに言葉として映像化したのです。みずぐの感受性の凄さはこんな作品からもわかるうものです。みなさんも自分の感受性を大切に、悩み考え続ける2年間にしてください。その時間が長ければ長いほど、それはみなさんの無形の財産となり、「空きる力」の源泉となるでしょう。どうか、一人一人のこれからの2年間で、それぞれに今申し上げたような価値が有る有意義で輝きに満ち溢れた時間になって欲しいと期待しております。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございました。今日の学生諸君の誇らしい姿をご覧になり、ホッとされていること存じます。しかし、彼らはまだスタート地点に立ったにすぎません。これから楽しいことばかりでなく、辛いこと悲しいことをたくさん経験しながら成長し、情感溢れる素晴らしい大人になっていくのだらうと思います。

私どもも精一杯学生と共に泣き、そして笑いながら生活をしていくつもりでおります。もちろん至らぬところも多からうと思います。何かございましたらぜひ、お声をかけてください。一緒に、この前途有望な若者たちを育てていきたいと願っております。

最後になりますが、本日もご参会頂きました多くのご来賓の皆様、保護者の皆様ののご健勝とご発展、そしてこの156名の新入学生

たちの前途に幸あらんことを心から祈念いたしまして、私の式辞とさせていただきます。

2018年4月3日

帯広大谷短期大学長 田中厚一